

十文字岳温泉の一枚摺と森喬亭

さて、嶽松堂は、その名から地元絵師とみられるが、管見の限り不詳である。一方、森喬亭は、二本松藩士の吉岡新左衛門の亭号である。吉岡は、果栗園・伊逗民を名乗った歌人で、多くの歌を残した。その傍ら、岳温泉の一枚摺のほか、「黒塚」を描いた『陸奥安達原黒塚之圖』の製板にも携わっており、二本松領内の名所の宣伝・発信に寄与した人物として評価すべきであろう。

（小野 孝太郎）

『事情明治太平記』 にみる戊辰戦争

戊辰戦争への人々の記憶がまだ色濃く残る明治八年(一八七五)、『事情明治太平記』という挿絵・振り仮名入りの児童向け読み物が出版されている。

題名からも連想されるように、同書は大政奉還から西南戦争までの明治維新の動乱を描いた戯作本で、明治十二年までに全二十四編(四十八冊)が刊行された。著者は歌川派の絵師(歌川房種)としても知られる長崎県士族の村井静馬、絵師は狩野派の鮮斎永濯である。

政権が明治新政府に移った後の刊行物であることから、さぞや勝者である新政府びいきの内容であると思いきや、実は敗れた旧幕府方や会津藩にも多くの見せ場が与えられている。

たとえば、鶴ヶ城攻防戦である。新政府軍は城を取り囲み、連日攻撃を加えるが、「城兵は尚屈する色なく」、「紙鳶を城上に放ち」余裕を見せる。これを「愚弄」と受け取った新政府軍が一斉に攻撃を仕掛けると、会津藩兵が反撃に出た。

城門左右に推開砲手を揃へて数十発釣瓶かけツ、打放せし煙りの下を這潜りて寄せ手の手元へ



事情明治明治太平記 三編上
(庄司家文書Ⅱ 3627)

砍て入り四方八面に薙廻れバ寄手の銃隊大いに慌て乱れ立ちたる其所へまた城中より大小砲を群がる中へ打込ミたる弾丸雨の如くなれバ痕を負える者最多く遂に敗散せし程に城兵ハまた長追ひせず忽ち兵を引揚げて堅く城門を閉したり

相手を挑発して冷静さを失わせたところを一気に叩き、それでいて深追いはしない会津藩兵の見事な戦いぶりに魅了される。

なお、『事情明治太平記』の同時期には、『復古夢物語』『近世紀聞』『近世太平記』などの類書が相次いで刊行されている。それらにおける戊辰戦争の描かれ方は、当時の人々が戊辰戦争の敗者に対して抱いたイメージの一端を窺い知ることができている。山田 英明)

令和七年度行事予定

(令和七年十月～令和八年三月)

一、展示公開(収蔵資料展)

水郡線応援「東白川郡の古文書―鮫川村編―」

水郡線活性化を応援するため、水郡線沿線地域(東白川郡)ゆかりの古文書を取り上げる第二弾の展示です。鮫川村に関係する古文書を紹介し、棚倉藩の検地、寺西封元の小児養育政策などを紹介します。また、トピックス展「ふくしまの、いまから80年前」も同時開催しています。

【会期】開催中より十一月二十四日(月・振休)まで

収蔵資料展「新公開史料展」

『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第五十六集に収録された、国見町小坂地区ゆかりの「高原庄一家文書(その二)」と、同町藤田地区ゆかりの「二文字屋文書(その二)」のなかから特徴的な史料を展示します。また、ふくしまDCの開催に先立ち、トピックス展「旅する人、移動する人」も同時開催します。

【会期】十一月十三日(土)～令和八年三月二十二日(日)

歴史資料館移動展「明治時代の白水阿弥陀堂」

明治時代の白水阿弥陀堂の修理や

日本美術院による堂内の仏像の修復に関する歴史資料を展示中です。

【会期】開催中より十一月五日(水)まで

【会場】福島県立図書館企画展示コーナー

二、地域史研究講習会

地域の歴史資料の保存と活用について関心を高める機会として、大橋幸泰早稲田大学教授によるご講演「島原天草一揆の記憶」のほか、当館学芸員による江戸・明治時代における阿武隈川上流域の舟運に関する報告を行います。

【日時】十一月十五日(土) 午後一時～午後三時三〇分まで

【会場】三春交流館「まほら」

【定員】百名(事前申込不要)

三、資料閲覧について

電話で予約された方の資料閲覧を最優先とします。詳細や最新の情報はHPでご確認願います。

福島県史料情報

第73号 令和7年10月25日

編集・発行

公益財団法人 福島県文化振興財団

福島県歴史資料館

〒960-8116 福島市春日町5-54

TEL 024-534-9193 FAX 024-534-9195

URL <https://www.fcp.or.jp/history/>

E-mail history@fcp.or.jp